

## 青森県教育委員会第787回定例会会議録

期 日 平成26年8月6日（水）

場 所 教育庁教育委員会室

### 議事目録

- 議案第1号 青森県生涯学習審議会委員の人事について・・・・・・・・・・原案決定
- そ の 他 職員の懲戒処分の状況

平成26年8月6日（水）

- ・開会 午後1時30分
- ・閉会 午後1時44分
- ・出席者の氏名  
豊川好司、町田直子、清野暢邦、中沢洋子、野澤正樹、中村充（教育長）
- ・説明のために出席した者の職  
佐藤理事、奈良教育次長、岡田参事、教育政策・職員福利・学校教育・教職員・学校施設・生涯学習・スポーツ健康各課長、高等学校教育改革推進室長
- ・会議録署名委員  
町田委員、野澤委員
- ・書記  
外崎学、村上健

## 会 議

### 議 事

#### 議案第 1 号 青森県生涯学習審議会委員の人事について

(中野生涯学習課長)

生涯学習審議会は「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」に基づき、県教育委員会の諮問に応じ、生涯学習に資するための施策の総合的な推進に関する重要事項を調査・審議する附属機関である。

青森県生涯学習審議会設置条例により設置している、青森県生涯学習審議会委員の任期が、平成26年8月20日をもって満了となることから、新たに委員を委嘱するものである。

今回委嘱する委員のうち、新任は、三上亨氏、上野修子氏、荒川由美子氏、岡詩子氏、鹿内葵氏、出崎真里氏、西澤ナミ子氏、駒井昭雄氏、増田由美子氏、春藤千秋氏、工藤清子氏の11名、再任は、太田博之氏ほか3名の計15名である。

なお、春藤千秋氏、工藤清子氏は公募により選考した方である。

また、青森県生涯学習審議会設置条例第2条第2項の規定に基づき、知事の意見を求めたところ、7月25日付けで同意する旨の回答を得ている。

委員の任期は、平成26年8月21日から平成28年8月20日までの2年間である。

(豊川委員長)

何か質問、意見はあるか。

なければ、議案第1号は原案のとおり決定することに異議はないか。

(全委員)

異議なし。

(豊川委員長)

議案第1号は原案どおり決定する。

#### その他 職員の懲戒処分の状況

(豊川委員長)

7月中に行った職員の懲戒処分については資料のとおりである。何かご意見、ご質問はないか。なければ、懲戒処分の状況については了解した。

## その他 文化審議会での次期世界遺産推薦候補の審議結果について

(豊川委員長)

本日予定されていた案件は以上であるが、その他案件の「その他」として、事務局から世界遺産の関係で報告があるので、説明をお願いします。

(岡田参事)

去る7月10日、文化審議会世界文化遺産・無形文化遺産部会及び同世界文化遺産特別委員会が開催された。

審議の結果、最も推薦準備が整っているとして「長崎の教会群とキリスト教関連遺産群」が今年度のユネスコへの推薦候補として選定され、本県を含む4道県並びに関係自治体が連携して取り組んできた「縄文遺跡群」については、推薦は見送りとなったものである。

縄文遺跡群世界遺産登録推進本部長の三村知事からは、「国内外の専門家の助言や文化庁の指導を受けながら、早期にユネスコへ推薦していただけるよう、全力で取り組む。」との意向が示されており、今後は、引き続き4道県並びに関係自治体が連携しながら、直近の機会での世界遺産登録を目指し、諸課題の整理と推薦書原案の充実に取り組んで参りたい。

(豊川委員長)

この件については、7月中旬に報道されたところであるが、皆さんのご意見をいただきたいと思う。

(野澤委員)

世界遺産登録に向けては、事務局だけでなく、民間がこぞって支援する動きが大事だと思っている。先日、七戸でもそういう動きがあるということを読んだが、様々動きがあるので、民間、そして学校関係、児童・生徒が興味を持つような状況を教育委員会としてもつくっていかればと思う。

また、世界遺産を目指す会の事務局を担当している三内丸山応援隊、それから青森県商工会議所連合会会長の若井敬一郎さんをはじめ、一般会員を募りながら、民間からも大いに興味を市民・県民に呼びかけるような動きをしつつある。民間、それから教育委員会が足並みをそろえて、一つの動きとして、この一年、二年、正面突破するような動きが大事だと思うので、事務局担当の岡田さんをはじめ皆さんというよりも教育委員会がそういう方向性で動いていくということを委員として呼びかけたいと思うので、委員長にはよろしくお願ひしたい。

(町田委員)

一般市民の皆さんの気運というのはまだまだ低いと思う。そこに関わってこそ「どうだ」という気持ちになれるが、学生や若い人というのはそういうことも知らずにいる、ましてやそんなすごい遺産が青森県にあるということさえも認識していない現状がまだまだあると思う。これだけすばらしいものを持っている青森県であるので、教育の面からもそうだし、またそういうものを認識するような機会をどんどん増やして行って、住民たちが「私

たちはこんなすばらしいものを持っているんだ」という認識を持てるような県行政に取り組んでいければと思うので、引き続きがんばっていただきたいし、がんばっていききたい。

(中沢委員)

私の実家の目の前が二ツ森貝塚なので、自分たちの遺跡を誇りとして持てるように地域を巻き込んで盛り上げていければいいなと思う。

(清野委員)

何年もかかっているが、これまでと同じようにしてやっていくのか。それとも、ガラッと変えてやっていくのか。

(岡田参事)

ユネスコから示されている「作業指針」というのがあり、遺跡の価値等についてはそれに沿った形で論述していく。我々が暫定リストに記載された頃には、一年間に複数の案件が日本から推薦されていたが、3年前から一年に1件のみとなった。内容については、骨格部分は専門家委員会でご議論いただいて、文化庁でも了解していると思う。細かい部分に関しては、毎年、世界遺産委員会でも様々な議論があるので、それを採り入れながらバージョンアップしていくというのが基本である。

(豊川委員長)

皆さんから応援の言葉をいただいたので、来年度に向けてしっかり精査して取り組んでいただきたいと思う。盛り上げていくために何か動いた方がいいと思うが。

(野澤委員)

登録に向けての具体的な動きは文化財保護課でやっているが、教育委員会としての環境の醸成として中村教育長にお願いしたいのは、教育での政策という形。それから世界遺産に関わるものを見学したり、少し学ぶとか。それは決して授業を圧迫し、足手まといになるものではない。青森県を理解し、知事及び我々が求めているしっかりとした地域、社会、郷土を認識するという意味では非常に大事なことだと思うので、前にも言ったとおり、教育委員会全体として取り組むべきではないかと思う。

(中村教育長)

知事、それから教育長としても、縄文講座ということで学校をまわり、実物を見せたり、スライドを使ったりしてお話をしている。そうすると、子どもたちの反応が変わってくる。そういうことをすべての学校でできるかといえばなかなかできないが、それぞれの地域に縄文関係の遺産があるので、それぞれの地域でそうしたことをやっていただきたいと思う。教育委員会としてもその手助けをする方策を考えていきたい。また、既に施策を打っているところもあるので、さらに充実させていきたいと考えている。

(豊川委員長)

世界遺産の件については了解した。以上で、定例会を終了する。